

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー



Deloitte.
デロイトトーマツ

シニアアナリスト /
公認会計士

児玉 久実さん
(43歳)
Kodama Kumi

Check

世界的ネットワークで国際開発に貢献

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社 (DTFA) は、2015年10月、国際開発事業の専門組織として「国際開発アドバイザーサービス」部門を設置した。この部門は、国際開発事業に求められる専門性やサービスメニューの多様化などに伴い、例えば公共財政管理や官民連携 (PPP)、インフラ事業の形成・推進、中小企業を含む日本企業の海外展開支援などDTFAをはじめデロイト トーマツグループが参画できる裾野は着実に広がっており、事業推進にあたる中核的な専門組織として設立された。同部門担当の執行役員・パートナーである辻本 令氏は、「当グループは日本国内で8,700人、海外全体で22万5,000人の専門人材を擁し、特に国際開発分野はグループ全体で最重要分野のひとつとして注力している。日本においても、これら国内外のリソースと経験を有機的に連携させ、さらに

日本のODAに貢献していきたい」と意欲を語る。専門組織のスタッフは現在約15人。今後これをさらに拡充する方向で、途上国でのビジネス経験者、コンサルティングやプロジェクトマネジメント能力の高い人材などリクルート活動を強化している。



company data

デロイトトーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社
Deloitte Tohmatsu Financial Advisory LLC
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル
設立：2001年6月 資本金：3億円
従業員数：532人(2016年4月現在)
代表者：代表執行役社長 新田正実
事業分野：国際開発アドバイザー、インフラ・PPP、M&A、
企業再編など

recruitment

新卒採用：あり 中途採用：あり
募集職種：会計、ファイナンス、公共財政管理、インフラ・PPPアドバイザー、ビジネスコンサルティング、など
募集人数：若干名
TEL：03-6213-1180 FAX：03-6213-1085
URL：http://www2.deloitte.com/jp/ja.html/

Career Path

- Age 22 大学卒業後、伊予銀行に就職
- 27 青年海外協力隊に参加。ミクロネシア連邦のカレッジで日本語教師として活動
- 33 有限責任監査法人トーマツ大阪事務所に入所
- 40 デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー (DTFA) に出向
- 41 DTFA国際開発アドバイザー部門へ (シニアアナリスト) モンゴル国「内部監査能力向上プロジェクトフェーズ2」、他に従事

帰国後、大学の恩師のアドバイスもあり、公認会計士を目指す道を選択し、専門学校でゼロから勉強し3年後資格を取得できました。日本語教師と公認会計士という2

つの「資格」が国際協力の道を大きく切り開いたと思います。今後、公認会計士の資格も生かしながら、さらに経験を積み、海外フィールドを広げたいと思います。

2つの資格が国際協力の道を開く

監査 査法人トーマツ大阪事務所
で会計監査などの業務に従事した後、業務の幅を拡大すべく、グループ会社のデロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー (DTFA) に出向して、企業再編業務に従事している最中に、モンゴルの政府開発援助 (ODA) 案件に

監査の啓蒙活動から開始し、現在は、内部監査の法整備、品質保証などの制度構築、実務指導などに活動が移っています。私は国内の監査業務などで培った経験を生かし、主に研修講師、マニュアルの作成、実務指導などに携わっています。

件に関するスタッフを探しているとお話をいただき、迷う事なく引き受けました。青年海外協力隊に参加して開発途上国におけるさまざまな課題を見てしまったが故に、公認会計士としてもこの分野に挑戦してみたいと思いました。

協力隊については学生時代にその存在を知って関心を持ちました。当時はUターンで地元銀行に就職し、その後、国際関係の情報量が多い神戸支店への転勤を契機に、協力隊参加への思いが強くなりました。ただ、学生時代の専門分野 (植物培養) や銀行経験での参加は難しく、当時ボランティアをして興味を持っていた日本語教師の資格を取得。その後協力隊に合格し、日本語教師としてミクロネシア連邦に派遣されました。今振り返ってみると、この2年間の協力隊経験は私を現在の仕事に導く大きな転機になったと思います。

その後、DTFAに転籍し、現在はモンゴルで国際協力機構 (JICA) の内部監査に関する技術協力案件の専門家として、1年の半分ほど現地での活動に当たっています。

2011年にフェーズ1が始まった当プロジェクトは、当初モンゴルの大蔵省職員らへ向けた内部